二〇一三年一〇月二五日

澄む水に恋を占ふみくじかな　ひかり
爽やかや海一望のサンルーム　菜々
コンテナの山に埠頭の秋時雨　よし子
玉の日を弾きて軒の柿すだれ　ともえ
残る虫休耕田の其処彼処　さつき
身に入むや霊場に古る千羽鶴　なつき

二〇一三年一〇月二四日

神の楠大騒ぎして台風来　ひかり
野良猫の声のか細く秋風裡　有香

二〇一三年一〇月二三日

剪定の鋏のリズム秋天下　三刀
秋うらら異人館街ジプシーす　満天

二〇一三年一〇月二二日

身に入むや橋詰めに立つ水難碑　有香
魁としてぶなの森黄葉す　はく子
屍の骸のごとく蓮枯るる　ぽんこ
ゴンドラの行き交ふなぞへ野菊咲く　さつき
露天湯を独り占めして秋惜しむ　はく子

二〇一三年一〇月二一日

道行きの人に誉められ鉢の菊　こすもす
トラックの牛と目のあふ秋思かな　さつき
松手入れ終え一服の茶の美味し　あさこ

二〇一三年一〇月二〇日

力石銀杏紅葉をしとねとす　さつき
猪害を託つ話題や村まつり　よう子

二〇一三年一〇月一九日

岬鼻に佇み海の秋惜しむ　三刀
をみな等を一瞥したる穴惑　うつぎ
ゴンドラの影落としゆく秋の山　さつき
御神体てふこの杜の秋を聞く　満天
亡き母の部屋の窓辺へ小鳥来る　菜々

毎日句会みのる選・二〇一三年一〇月二七日